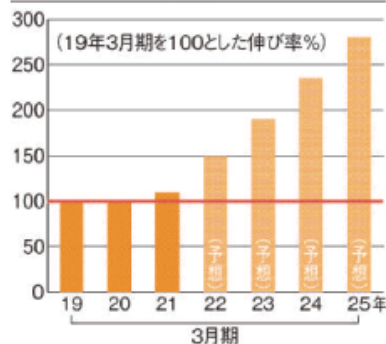


HDD基幹部品増産

サンコール、DC向け2.8倍

サンコールのHDDサスペンション
生産能力増強計画



【京都】サンコールはデータセンター（DC）向けに需要が拡大しているハードディスク駆動装置（HDD）用部品を増産する。約17億円を投じ、国内外の生産拠点でラインを増設。第5世代通信（5G）の普及やIoT（モノ

のインターネット）技術の進展による旺盛なデータストレージ需要に対応する。同社は2025年3月期に19年3月期比で同製品の生産能力を2・8倍に引き上げる方針。大口顧客からの引き合いで現在もフル稼働が続いており、投資を急ぐ。

増産するのはサスペンションと呼ばれる基幹部品で、HDD内で信号を読み書きする磁気ヘッドを支える板バネ。数十μm単位で位置決めを実現する精密部品だ。同社では自動車関連部品に次ぐ主力事業として位置付けており、大手HDDメーカーに供給している。今回の投資では本社工場（京都市右京区）

とフィリピンの協力工場それぞれにラインを増設する。来春めどに完成予定で、順次立ち上げる。稼働後の生産能力は19年3月期比で5割増となる見込み。本社工場では、今後次世代品対応ラインの新設も検討する。旺盛な需要を取り込み、31年3月期の全社の売上高でHDD用サスペンション事業を含む電子情報通信分野の構成比を50%まで引き上げる。坂東発行経営企画部部長は「データセンター向けHDDの需要は今後10年程度は伸びていく」と見ており、来

期以降も継続的に増産投資を計画する。HDD需要をけん引してきたパソコン向けは、フラッシュメモリーを使ったソリッドステートドライブ（SSD）への置き換わりが進み減少傾向にある。ストレージ需要が急増するデータセンター向けでは、容量当たりの単価に優れるHDDが依然主流だ。最近では必要に応じてオンラインでアクセスできるニアライン用途での需要が特に拡大している。